

第31回有瀬図書館ギャラリー展

神戸学院大学有瀬図書館
展示会通信第34号
2015年2月6日発行

Meridian

開催期間：2015. 2. 6(金)～2015. 3. 28(土)

開催場所：神戸学院大学有瀬図書館 本館2階エントランス展示コーナー



不思議なおはなし

*開催期間中、日曜・祝日は休館です。

*開催時間や開催期間は変更になることがあります。図書館HP、掲示にてご確認のうえご来館ください。

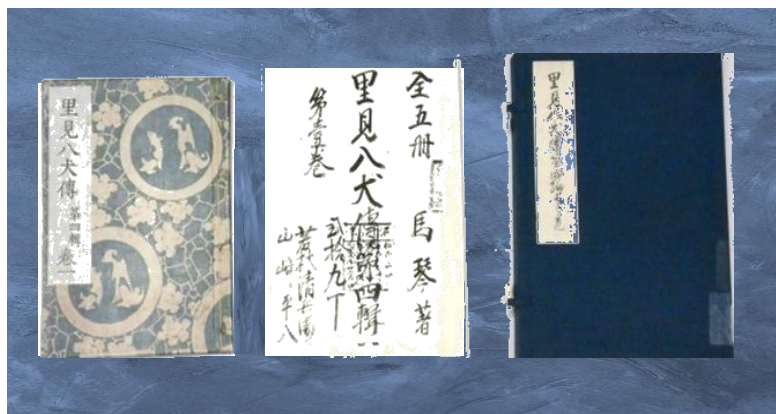
第31回有瀬図書館ギャラリー展では、「不思議なおはなし」と題して、日本を中心とした怪異譚(かいいたん)や御伽話などの資料を展示しています。

妖怪や幽霊、鬼や人魚など…人間ではない不思議な生き物を描いた作品は数多くあります。今回の展示では、日本最古の物語といわれる『竹取翁物語』や、小泉八雲が日本各地の伝説を再話した『怪談』、また、『牡丹灯籠』や『四谷怪談』といった、歌舞伎にも取り入れられた怖い話など、想像上の生き物や超自然的な現象を題材にした物語を集めました。

普段は閉架資料として閲覧が制限されている貴重な資料も含まれています。この機会に、ぜひご覧ください。



展示資料の紹介



▲『南総里見八犬伝』

江戸時代の読本作家、曲亭馬琴が28年かけて著した大長編読本。全9輯、106冊。

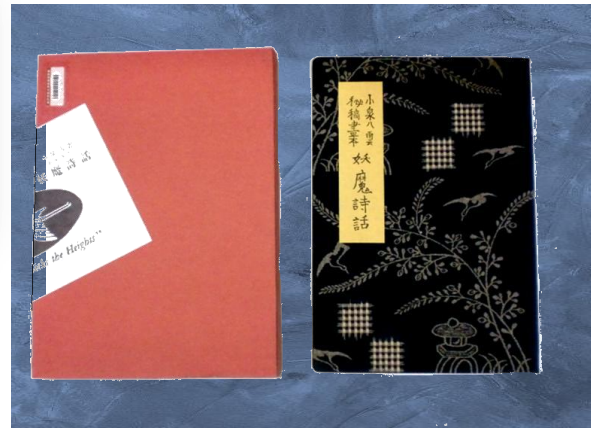
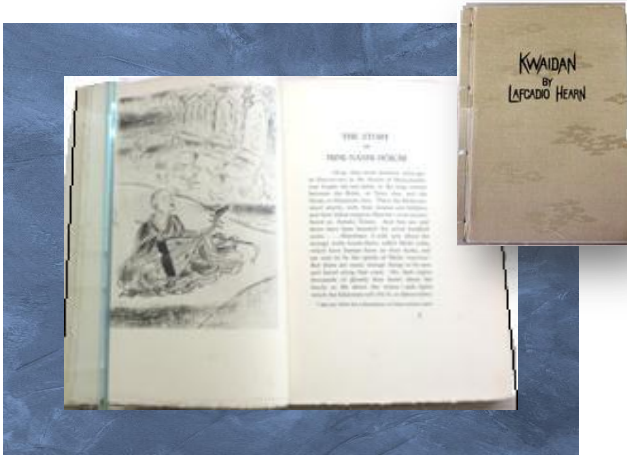
実在した房総里見氏を題材にした創作小説。勧善懲悪を主題としている。



小泉八雲
(パトリック・ラフカディオ・ハーン)

1850年（嘉永3年）6月27日、ギリシャのレフカダ島で、アイルランド人の父と、ギリシャ人の母との間に生まれる。

1890年（明治23年）、39歳のとき記者として来日。日本の古き伝統や日本固有の文化を愛した八雲は、多くの作品を著し、日本を広く世界に紹介する。八雲の妻、セツの協力で、日本の古い話を元に再話作品として数々の怪談を残す。（◀写真左）



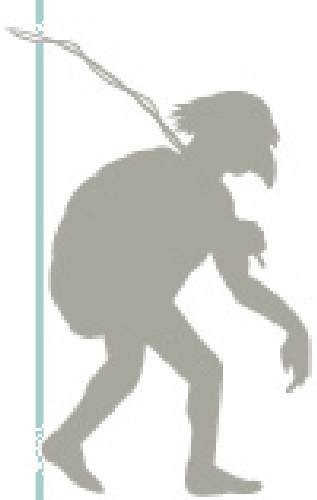
▲小泉八雲秘稿畫本『妖魔詩話』

小泉家秘蔵の『ゴブリン・ポエトリー』の草稿ノートを元に完成した画本。江戸時代の狂歌絵本『狂歌百物語』に登場する妖怪が描かれている。

▲『怪談』に描かれた「耳なし芳一」

安徳天皇や平家一門を祀った阿弥陀寺を舞台にした怪談。1904年初版発行。

展示の様子



編集後記

古今東西いたるところで、さまざまな不思議な物語が作られてきました。奇怪な生き物や非日常的なストーリーは、なぜこうも人々を引きつけてやまないのでしょうか。普段の生活の中では理解しがたい超常現象に、私たちは恐れを抱きつつも興味を持たずにはられません。

人間は、自然や宇宙を前にすると非常に無力な存在と言えます。私たちの心の奥底にある太古からの「未知なるものへの恐怖」が、探りたい、把握したいという欲求を起こさせるのでしょうか。あるいは、進化を遂げるほど、我々は刺激や興奮を求めてきたのかもしれませんが。

あらゆるものを恐怖の対象として生み出されたさまざまな怪奇、その想像力の豊かさに脱帽します。人類がいる限り、このような奇妙な物語は続いていくと言えるのではないのでしょうか。これからの時代には、どのような不思議なおはなしが語られていくのでしょうか…楽しみにしたいと思います。



新館2階書籍テーマ展示コーナーでは、

「申す、申す 妖怪と人々～襖をのぞけば百鬼夜行～」と題し、妖怪をテーマにした資料を展示しています。

こちらの資料は貸出可能となっておりますので、あわせてお楽しみください。

参考文献

- * 栗本薫『栗本薫の里見八犬伝』講談社、2001年。
- * 寺田寅彦『寺田寅彦全集 第十六巻』岩波書店、1998年。
- * ラフカディオ・ハーン、和田久實『小泉八雲 日本の心』彩図社、2003年。

神戸学院大学図書館 展示会通信 MERIDIAN 第34号

2015年2月6日発行

発行・編集：神戸学院大学 有瀬図書館

〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

TEL：078(974)4584 E-mail：pub-lib@j.kobegakuin.ac.jp

ホームページURL：http://opac.kobegakuin.ac.jp/